

「応募中（受入予定）の研究費」の記載方法について

(例) 応募する研究種目：基盤研究 (c)
 研究代表者と研究分担者6名が研究経費500万円 (5,000千円) で応募する場合

○研究経費 (研究者・年度別)

研究者 \ 研究経費	研究経費 (直接経費) (千円)					総計
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
代表	1,000	500	500	500	500	3,000
分担1	100	200	100	50	50	500
分担2	100	0	0	0	0	100
分担3	100	100	100	100	100	500
分担4	100	0	100	0	100	300
分担5	100	0	0	0	0	100
分担6	100	100	100	100	100	500
	1,600	900	900	750	850	5,000

○研究計画調書に記載する研究経費 (研究者別)

【研究代表者】
 令和2年度の研究経費：1,000
 (期間全体の額)：3,000
総額：5,000

【分担1】
 令和2年度の研究経費：100
 (期間全体の額)：500

【分担2】
 令和2年度の研究経費：100
 (期間全体の額)：100

・

・

・

応募情報入力欄 (2020年度)

応募情報入力

画面を表示してから9分経過

研究費の応募・受入等の状況

承認状況	区分	氏名 (年齢)	所属研究機関	1年度 2.分担割合	20XX年度 研究経費 (千円)	20XX年度 エポート (%)
研究代表者	研究代表者	(研究代表者) 9999999 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 1 2. 1	1000	
研究分担者	研究分担者	(研究分担者) 1234567 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 2 2. 2	100	
研究分担者	研究分担者	(研究分担者) 1234567 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 1 2. 1	100	
研究分担者	研究分担者	(研究分担者) 1234567 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 1 2. 1	100	
研究分担者	研究分担者	(研究分担者) 1234567 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 1 2. 1	100	
研究分担者	研究分担者	(研究分担者) 1234567 (フリガナ) フクダ イチロウ (漢字) 福田 一郎 (年齢) 00才	○〇大学 ○〇学部 教授	1. 1 2. 1	100	

研究参加人数 7名

研究費の応募・受入等の状況
 入力欄 (2020年度・期間全体)

画面を表示して

研究費の応募・受入等の状況

20XX年度 基盤研究 (c) (一般) 研究計画調書

研究費	1. 応募額 (研究費)	20XX年度 研究経費 (千円)	20XX年度 エポート (%)	研究内容の記入および 他の研究費に記入 (本誌掲載決定後、応募する場合は 詳細欄の記入が必要となります。記入欄は必ず記入してください。)
代表	1000 (3000)		XX%	総額5000千円

(参考) 分担者自身が研究代表者として応募する研究計画調書への記載 (下図：分担1が他の課題に応募する際の記入例)

研究費の応募・受入等の状況

20XX年度 基盤研究 (c) (一般) 研究計画調書

研究費	1. 応募額 (研究費)	20XX年度 研究経費 (千円)	20XX年度 エポート (%)
分担1	100	100	XX%

【よくあるお問い合わせ】

- **分担金を配分せずに研究分担者として参画することはできますか？**
 できません。分担金を配分せずに参画する場合は「研究協力者」になります。
- **「連携研究者」として参画することはできますか？**
 連携研究者の制度は2018年度に廃止されました。
- **応募中 (受入予定) の研究費に他の研究者が受け取る分担金を除かずに記載して、何か懸念はありますか？**
 書面審査の評点には影響しませんが、「不合理な重複や過度の集中」に該当すると判断され、合議審査や2段階目の書面審査不採択となる場合があります。研究分担者に配分し、本来自分以外が使用する予定の研究経費も含めて記載することで金額が大きくなり、研究期間内で使いきれない状態と捉えられないよう、正確に記載してください。
- **(採択後、) 学内にいる研究分担者はどのように分担金を使用できますか？**
 財務会計システム上で分担金予算を配分することで、研究分担者が主体的に使用することができます。